

より良い漢方エキス製剤の服用方法の検討

田端店

○岩田奈津子

田端店スタッフ一同

【目的】

漢方エキス製剤は、一般的にお湯に溶かして服用することが推奨されている。これは本来煎じ薬として服用する場合は液剤であることから、エキス製剤を元の“剤形”に戻して摂取する方法である。また、簡便性という点から漢方エキス製剤に水を加えて電子レンジで温める方法も利用されているが、最近の学会等の報告で電子レンジのマイクロ波により一部の生薬において成分変化が確認されている。そこで実際に成分変化や味の変化の有無を調べ、服薬サポートに役立てられないかと考えた。

女性の3大処方といわれている当帰芍薬散・加味逍遥散・桂枝茯苓丸は、冷えを伴うケースに多く用いられ、お湯に溶かして服用するほうがさらに効果が期待できると考えられる。今回は、この3方剤について調査を行った。

【方法】

漢方エキス製剤（当帰芍薬散、加味逍遥散、桂枝茯苓丸）をお湯で溶かす方法と、エキス製剤と水を電子レンジで加熱する方法で調製し、成分変化の有無を高速液体クロマトグラフィー（HPLC）で分析した。

漢方エキス製剤はツムラ、クラシエ、コタローの各メーカーのものを使用した。

また、エキス剤との比較・参考のため煎じ薬の成分についても同条件のHPLCで分析した。

（成分分析については、母校である城西大学の研究室の設備を借りて行った。）

【結果】

ツムラ(25)桂枝茯苓丸において、電子レンジで加熱したものに一部成分変化が確認された。成分変化が確認された成分の由来生薬は同定できていない。

【考察】

これまでに抑肝散¹⁾、葛根湯、六君子湯²⁾、麦門冬湯³⁾において成分変化が確認されている。今回はお湯と電子レンジで溶かしたときでは、成分変化はほとんどみられなかった。

ただ電子レンジでの加熱時間が長くなると突沸する恐れがあるため注意が必要である。水の量や加熱時間など、電子レンジの利用による服用方法の確立にはさらなる検証が必要だと考えられる。

1)細瀬ら 日本薬学会第132年会（札幌） 2)宮本ら 第29回和漢医薬学会（東京）

3)宮沢ら 日本生薬学会第60年会（北海道）